

# くすのき



岡本小学校 学校だより

No.2

令和4年5月10日

『生き生き学校2』



《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

## 学び合いスタート

ゴールデンウィークが明け、学校にまた子どもたちの元気な声が戻ってきました。新しい学級にも少しずつ慣れ、学ぶことを楽しんでいる様子が見られます。

「くすのきプラン2022」を、岡本小学校HP（上記QRコード）に掲載しました。めざす学校像「生き生き学校2（ツー）」をめざし、今年度は特に「自律する学習者」＝「認め合い、学び合い、共に高め合う子ども」の育成に力を入れていきたいと考えます。

多様な考えを受け入れ主体的に学ぶ姿、対話を通して協働的に学ぶ姿、自分の行動に責任をもつ姿などを、学校だよりでも紹介していきたいと思えます。

## 1年生

生活科の一場面でのことです。担任の先生から、子どもたちにアサガオの種が一粒ずつ配られました。「校長先生、見て見て！かわいい」と声をかけてくれる子もいました。1年生の小さな手のひらにあるアサガオの種は、2年生が昨年育てたものです。

1年生は、種をいろいろな角度から観察して、絵に描いたり、気づいたことを発表したりしました。

岡小の1年生に代々受け継がれている命の種…今年の1年生も大切に育ててくれることでしょう。どんな花を咲かせるのか、楽しみです。

## 2年生

「おいしくなあれ」と唱えながら、楽しそうに土に肥料を混ぜていました。2年生は、生活科の学習で、一人一鉢夏野菜を植えます。そのための土づくりです。

なす、オクラ、枝豆など5種類の中から自分が植えたい野菜を選ぶことになりました。子どもにとって「自分で選べる」ということは、大きなやる気につながっています。

夏になり、野菜が収穫できた時には、きっと大きな自信につながることでしょう。



## 3年生

3年生は、新たに社会と理科の学習が始まりました。先日は学校の屋上から南足柄市を俯瞰し、方角によって、土地の使われ方や建物の密集具合などが異なっていることに気づきました。

そこで、今度は「実際にまちを見てみよう」と、東西南北それぞれの方面に足を運びました。通学路やよく行く公園、仲良しの友達の家は知っていますが、まだまだ学校の周りには知らないところがたくさんあることに気づきました。これから、さらに「南足柄市よさ」を発見していきます。



## 4年生

4年生は、いよいよ今年度からクラブ活動が始まります。アウトドア・卓球・コンピュータなど全部で7種類の中から、第3希望まで選びました。コロナ禍で多少の活動の制限はあるものの、自分で選んだ好きな活動ができる時間は、子どもにとって楽しみなひとときです。

クラブ活動は、同好の趣味をもつ者同士が集まって行う活動です。異年齢で協力し合い、自分たちで計画を立てて運営していくことになるため、自主性を育むこともねらいです。

## 5年生

5年生は、いよいよ今年度から委員会活動が始まります。これに先立って、学年集会が行われました。

担任の先生から「岡本小学校を創っていくのは、5・6年生です。皆さんは、どんな岡本小学校にしたいですか？」と問いかけがありました。

6年生から委員会紹介をしてもらい、自分がやってみよう委員会を選びました。「環境委員会として落ち葉掃きをしたい」等、意欲あふれる言葉がいろいろな委員会で聞かれました。「みんなのために何かしたい」と、視野が広がっています。

# 6年生

5月17～18日、3年ぶりに日光修学旅行が行われることになりました。感染対策として、学校から現地まで貸し切りバスを使用します。子どもたちは念願の修学旅行実施に、心躍る思いです。

修学旅行の準備を進めながら最高学年としての役割もしっかりと行っています。今年度から、委員会の司会進行は輪番制で行っています。学級会の話し合い活動を応用した取り組みです。今年度初の委員会活動でも、6年生は見事な司会裁きで主体的な最高学年の姿を見せていました。



## 懇談会・引き取り訓練 ありがとうございます

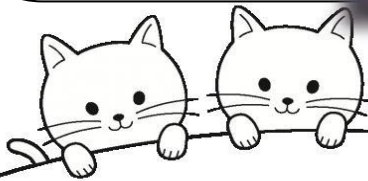
4月28日（金）は、今年度初の懇談会でした。コロナ以前は、PTA 総会と学習参観も同時に開催していましたが、今年度も感染予防のため懇談会のみを開催しました。残念ながら、子どもたちの様子をご覧いただくことはできませんでしたが、多くの保護者の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

学年によっては、各学級をオンラインでつなぎ双方向による懇談会を行ったり、子どもの様子を写真や動画でご覧頂いたり、普段の子どもたちのICT利用を少し体験できたのではないのでしょうか。

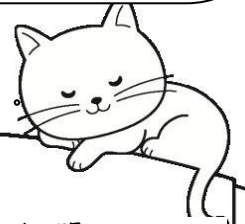


今回は洪水を想定し、各教室での引き取り訓練を行いました。初めての試みであったにもかかわらず、保護者の皆様のご協力により、感染対策への気遣いをさせていただきながら、整然と訓練を行うことができました。ありがとうございました。

災害の種類や学校施設の状況により、引き取り場所は変更します。より安全な引き取り場所をその都度的確に判断し、保護者の皆様には「マチコミメール」や「伝言ダイヤル」等で伝えるようにします。どんな災害に対しても確実に引き取りができるよう、引き取り人や緊急連絡先等の変更が生じた際には、すぐに担任にご連絡いただけるよう、よろしくお願ひします。



### わたしのひとりごと



「くすのきプラン2022」の中には、「〇〇の育成」という言葉が随所に表れます。「育成」という言葉には、「ぐいぐい引つ張る」という強いイメージがあります。時には、明確にゴールを指し示し、ぐいぐい引つ張ることも必要でしょう。でも、それだけでは、本当に子どもに力がついたことにはなりません。ぐいぐい引つ張る人がいなくなったら、その子はどうなるでしょう。

「育む」という言葉の語源は「羽」だそうです。「育む」というのは、鳥の羽でまあるく包み込むイメージです。親鳥がヒナを包んで「よしよし」と守っているうちに自然と力がつけば、ヒナは自分から巣立っていきます。私たちが「育成」の姿とは、まさしく、この「羽」が語源である「育む」＝「まあるく包み込んで見守っていく」という姿です。

子どもが昇降口に入るまで、心配そうに見守る親。毎朝泣きながら登校する子を何とかなだめ、勇気づけながら一緒に歩いてくる親。

自分のペースで歩き、なかなか時間までにたどり付けない子を、数メートル後ろから見守りながら歩いて歩く親。例年4月には、親と子のこんな光景が繰り広げられます。そんな子どもたちも、1年、2年と経つうちに、すっかり親から巣立っていきます。あの頃が、まるでそのように。しっかりと自立し、自分の脚でちゃんと歩いて登校できるようになります。「まあるく包み込んで見守ってあげた」からその姿です。

岡本小学校の職員一同、誰一人取り残すことなく、「まあるく包み込んで」子どもたちの自立・自律を促していきまします。時折見せる厳しさも「まあるく包み込んで」いるからこそです。ぜひ、担任を信頼し、意見の相違があれば対話を重ね、そして、不安があるときにはひとり悩まずお気軽にご相談ください。共に「育んで」まいります。